

## 挽き割り処理した飼料用粳米は 泌乳前期の乳牛用飼料中に 25%混合できる

飼料自給率の向上による安定した酪農経営の実現が喫緊の課題となっており、水田を活用して生産できる飼料用稲や飼料用米の利活用が注目されています。そこで、周産期乳牛に対して稲ホールクロップサイレージ (WCS) を粗飼料の主体とし、トウモロコシや大麦の輸入穀類の代替として飼料用粳米を用いた発酵混合飼料 (TMR) の有用性を実証しました。

### ☆ 技術の概要

1. 乾物比でチモシー乾草を 25%と圧ぺんトウモロコシと圧ぺん大麦を合計 25%混合した TMR (輸入飼料 TMR) を対照とし、チモシー乾草を稲 WCS (品種: ホシアオバ) に、圧ぺんトウモロコシと圧ぺん大麦を挽き割り処理した飼料用粳米 (品種: モミロマン) に代替した TMR (自給飼料 TMR) を供試し、分娩予定の 2 週間前から分娩後 10 週間目までの飼養試験を実施しました。

2. 自給飼料 TMR の乾物摂取量および乾物摂取量/体重比は、分娩後の各週次において輸入飼料 TMR と差がなく、泌乳前期において輸入飼料 TMR と同等の採食性が示されました。

3. 自給飼料 TMR 給与による乳量、乳脂肪率および乳タンパク質率は、分娩後の各週次において輸入飼料 TMR 給与と差がなく推移しました (図 1)。

4. 分娩後 10 週間の飼養成績は、自給飼料 TMR と輸入飼料 TMR に差はなく、自給飼料 TMR 給与によるエネルギー不足は認められません。また、ルーメン内容液性状や血液性状にも大きな影響が認められません。



写真1 飼養試験の状況

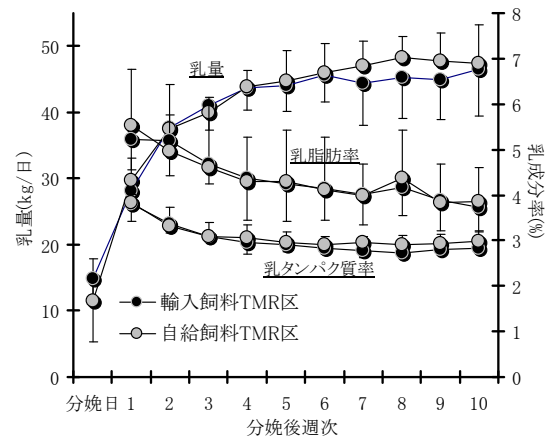


図1 乳量および乳成分率の推移

### ☆ 活用面での留意点

稲発酵粗飼料と飼料用米を用いて調製・給与する発酵 TMR の技術指標となりますが、粳米の使用については「飼料として使用する粳米への農薬の使用について」(平成 21 年 4 月 20 日付け農林水産省消費・安全局、生産局四課長通達) (平成 22 年 9 月 7 日付け一部改正) に留意する必要があります。詳細は、三重県畜産研究所・大家畜研究課 山本泰也 (TEL: 0598-42-2029) にお問い合わせ下さい。